

事業活動温暖化対策計画に関する事項

レ 新規 変更

|                                |  |   |                                      |  |                           |
|--------------------------------|--|---|--------------------------------------|--|---------------------------|
| 住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)         | 福岡県久留米市通町8番地16号  |   |                                      |  |                           |
| 氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)         | 三光株式会社 代表取締役社長 高木義幸  |   |                                      |  |                           |
| 事業概要                           | 化学工業   |   |                                      |  |                           |
| 該当する事業者要件                      | <input checked="" type="checkbox"/> 熊本県地球温暖化の防止に関する条例施行規則第5条第1号該当特定事業者(大規模エネルギー使用事業者)  | 前年度の原油換算エネルギー使用量                                  | 14,750 kl                            |  |                           |
|                                | <input type="checkbox"/> 熊本県地球温暖化の防止に関する条例施行規則第5条第2号該当特定事業者(自動車運送事業者)  | 県内登録の自動車数   | 台                                    |  |                           |
|                                | <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者   |   |                                      |  |                           |
| 計画期間                           | 令和2年度～令和6年度  |   |                                      |  |                           |
| 温室効果ガスの排出の抑制を図るための基本方針         | 現状、有明工場の設備増強及び荒尾工場の一部改造による生産量増加を計画しており、令和2年度には令和1年度比で温室効果ガス算定排出量は増加が見込まれます。そこで、新たに下記省エネ計画による抑制措置を計画的に実施し、温室効果ガス算定排出量の削減に努める。 |   |                                      |  |                           |
| 温室効果ガスの排出の抑制を図るための推進体制         | 省エネルギー推進チームにて推進を図る。  |   |                                      |  |                           |
|                                | 環境マネジメントシステム名称   | 適用範囲  | 取得年月日                                |  |                           |
| 温室効果ガスの排出の抑制を図るため実施しようとする措置の内容 | ①有明工場に設置した水素ボイラーを使用し、副生する水素を全量ボイラー燃料に使用することで現状使用しているボイラー燃料を削減する<br>②水銀灯のLEDランプ化の継続   |   |                                      |  |                           |
| 温室効果ガスの排出の状況及び抑制の量に係る目標        | 温室効果ガス算定排出量  | 基準年度の実績(A)<br>(令和1)年度<br>14,750 t-CO <sub>2</sub> | 前年度の実績<br>( )年度<br>t-CO <sub>2</sub> | 目標年度(B)<br>(令和6)年度<br>14,765 t-CO <sub>2</sub> | 増減率<br>((B-A)/A)<br>0.1%  |
|                                | 原単位温室効果ガス算定排出量   | 原単位<br>1.190 当たり<br>t-CO <sub>2</sub>             | 原単位<br>当たり<br>t-CO <sub>2</sub>      | 原単位<br>1.178 当たり<br>t-CO <sub>2</sub>          | 増減率<br>((D-C)/C)<br>-1.0% |
|                                | 原単位の考え方  | 県内事業所の総生産量(t)                                     |                                      |  |                           |
| 特記事項                           |  |   |                                      |  |                           |

- 備考 1 □のある欄には、該当する□内に「レ印」を記入してください。  
 2 「計画期間」は、提出する日の属する年度以降5か年度以内の期間を設定してください。  
 3 「基準年度」とは、原則、計画期間の前年度としますが、事業者が定める地球温暖化対策に係る計画において別に定める基準年度がある場合は当該年度を基準年度とすることができます。この場合、計画期間の前年度の実績を「前年度の実績」欄に記入してください。  
 「目標年度」とは、計画期間の最終年度をいいます。  
 4 温室効果ガス算定排出量の対象とする温室効果ガスは、エネルギーの使用に伴って発生する二酸化炭素とします。  
 5 原単位による目標を設定する場合は、「原単位温室効果ガス算定排出量」欄を記入してください。  
 「原単位の考え方」欄には、温室効果ガス排出量の抑制に係る取組等が適正に反映されると考えられる指標(生産数量、延べ床面積等)や設定に係る考え方等を記入してください。  
 6 「特記事項」欄には、過去の温室効果ガス排出削減に係る実績や地球温暖化防止に寄与する技術又は商品の開発等の取組があれば、記入してください。